

事業の背景・目的

平成30年度に実施した生息状況調査により、これまで環境DNAは検出されていたが個体が確認されたことのなかった河川において、初めて個体が確認され、アユモドキの生息のポテンシャルについて重要な知見が得られた。また、現在の繁殖地や生息地には、成魚の隠れ家の不足や水路ネットワークの分断などの多くの課題があることも明らかになった。今年度以降は、調査結果を踏まえ、現在の繁殖地や生息地の環境改善事業を実施し、個体群の回復を目指す。

事業の内容

事業① アユモドキ生息環境の改善

1. 繁殖地において埋まっている石積みをアユモドキが利用できるように整備した。
2. 水路ネットワークの連続性の確保を行った。
3. ラバーダム operatesに伴い水涸れが生じる際には取り残されたアユモドキの救出活動を行った。
4. 出水時等の非常時には緊急パトロールを行った。



①-1



①-2

事業② 効果測定

事業の効果を検証するため、個体数調査、繁殖状況調査及び仔稚魚調査を実施した。



得られた成果

- ・繁殖地付近において河床に埋没した石礫を掘り起し、その下面に空隙ができるように改善したところ、利用状況調査では確認されたアユモドキの約7割が石の下面から発見され、隠れ場所として有効であることが示唆された。
- ・ラバーダムの操作に伴う救出活動は6月、7月、9月に実施し、それぞれ59尾、10尾、39尾を救出した。
- ・繁殖時期の6月26日に、アユモドキ導入路において草刈りおよび土砂の掘り起しを行い、河川の連続性の改善を行った。
- ・個体数調査を9月に実施したところ、当歳魚は 548.3 ± 146.6 尾、一歳以上魚は 349 ± 104.1 尾と推定された。
- ・次年度も引き続き事業を実施し、成魚が繁殖に参加しやすい環境を作ることで個体群の回復を目指す。



アユモドキ救出活動